青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

会報　第７号　　平成 27 年７月５日発行

会長:嶋田博信　副会長:小谷昭・武田愛雄　事務局長:愛沢伸雄　小谷家当主:小谷福哲

事務局:〒294-0036 千葉県館山市館山 95 小高記念館（NPO法人安房文化遺産フォーラム）

TEL&FAX：0470-22-8271　E メール awabunka@awa.or,jp

公式サイト http://aoki-shigeru.awa.jp/　ブログ布良･相浜の漁村日記 http://meranoumi.wordpress.com/

＊＊会員募集中！　年会費 2,000 円　郵便振替口座００１５０−６−６１６２０１＊＊

7 月 19 日（日）は布良崎神社の祭礼

『海の幸』～サメを担ぐ漁師の姿は、神輿を担ぐ構図にそっくり !?

布良は、房総開拓神・天富命（あめのとみのみこと）が四国の阿波忌部氏を率いて上陸した地といわれる神話のふるさとである。阿由戸（アイド）の浜の目の前には女神山と男神山がそびえている。天富命を主祭神とする布良崎神社は、安房神社の前殿である。

『海の幸』は、布良崎神社の神輿がヒントになったと地元では考えている。青木繁が布良にやってきたのは７月中旬、当時の祭りは８月１日。大天皇と呼ばれる１トン近い神輿を、海の男たちが跳ねながら担ぐ。御浜くだりの神事では、女装した男衆が神輿を担いだまま海に入り、襦袢がはだけた男衆の裸体も神輿も夕陽を浴びて黄金色に輝く。氏子総代だった小谷家はすぐ隣にあり、青木も感動したにちがいない。

『海の幸』は、左右の端はピントが甘く、未完成だという説もある。しかしそうではないと、石橋財団石橋美術館の森山秀子学芸課長は語る。「神話好きの青木は多くの神話を描いている。『海の幸』も漁師の姿をしているが、これは人類が海からやって来て海に還るという神話を描いたもの」だという。まさに、夕陽の祭典のシーンに重なる。

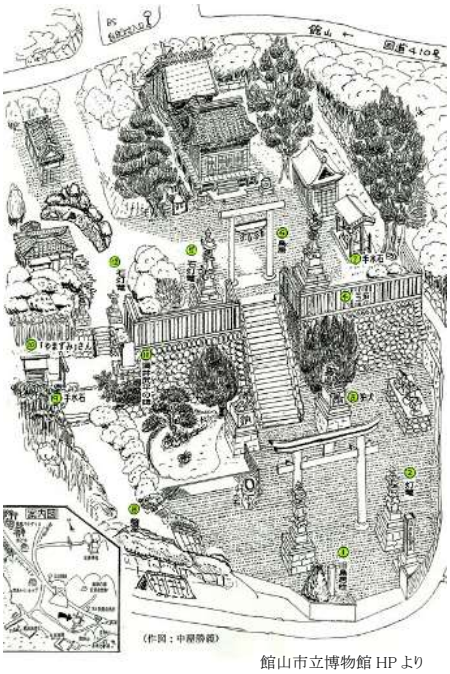
今年の祭礼は、７月１９日（日）。朝 10 時から祭典。夕方５時に出祭し、漁村の狭い路地を練り歩き、日没時には布良漁港で御浜くだりの神事。現代では海に入ることはないが、100 年前の勇壮なシーンが目に浮かぶ。暗くなってから心臓破りの地獄坂を慎重に登り、安房自然村の駐車場で相浜の囃子踊り手と合流し、宵闇のクライマックスが続く。

7 月 18 日（土）13:30～布良崎神社の見学解説会

はじめ布良に開かれた安房神社が現在の地に移った 717 年、その跡地に布良崎神社が創建された。1876（明治 9）年に布良の大火があり、神社が消失したため、周辺区域では茅葺を禁止する誓約が立てられ、1878（明治 11）年より三州瓦の職人を家族ごと招いて、神紋の十三菊の鬼瓦をはじめ布良で瓦を焼き始めた。1880（明治 13）年から積み立てた 8 年間の貯金を基金にして境内を整地した。1889（明治 22）年に再び大火があり、被災した小谷家は瓦葺で現在の住宅を建てている。

その後、1908（明治 41）年に現在の社殿が造営された。境内から海を眺めると、２つの鳥居の間に富士山が見え、本殿に上がると水平線が鳥居の上に重なるように設計されたビューポイントである。城壁のような石垣は、マグロ漁の最盛期、伊豆稲取で水揚げした船が軽く不安定なため持ち帰った丸い伊豆石を、三州瓦の職人が工夫して積み上げた。関東大震災でも崩れることなく、今に残る文化遺産である。

古代の民俗風習において、神が宿る自然物が信仰の対象とされていた。神社の原点といえるのが磐座（いわくら）であり、社殿や鳥居は後年建てられたものである。村人は素朴な磐座に祈りを捧げ、磐座から暦を読み解いて季節ごとの潮の流れや干満を知ったという。磐座の背が向く直線上の水平線に太陽が沈むのが冬至、一の鳥居と磐座を結ぶ直線上は夏至である。



館山市立博物館 HP より

小谷家住宅、平成 28 年春の公開までカウントダウン！
～修復基金もあとひと息、瓦プロジェクトにご協力をお願いします。～

去る6月9日（火）、NPO法人青木繁「海の幸」会と館山市教育委員会より来賓を迎え、会員 39 名が集い定期総会を開催いたしました。来春の公開に向けて進んでいる小谷家住宅の修復工事の進捗状況をはじめ、4年連続でおこなわれた文化庁の補助事業「文化遺産を活かした地域活性化」など、活動報告がなされました。

今年度は、新たに文化庁の「NPO等による文化財建造物の管理活用事業」に採択されました。公開のための準備委員会を設けて、管理活用計画の策定と体制づくりを進めるとともに、室内展示や環境整備のためのワークショップを開催します。

また、修復基金の不足分を広く募るために、一口 1,000 円の「瓦プロジェクト」が提案されました。案内チラシを同封しますので、ぜひご家族やお知り合いの方々に協力の呼びかけをお願いいたします。

引き続き、「館山市ふるさと納税」を通じての寄付も受け付け中です。【13】小谷家住宅の保存・活用に関する事業を指定、ホームページの氏名公開【可】を選択し、ご利用ください。今年度よりクレジットカード決算も可能になり、便利になりましたので、詳細は館山市教育委員会生涯学習課（0470-22-3698）へお問い合わせください。

◇ 青木繁「海の幸」オマージュ展のお知らせ ◇

NPO法人青木繁「海の幸」会では、小谷家住宅保存のチャリティ基金を得摘めるためのオマージュ展を、2015 年も各地で開催します。全国の著名な画家の素晴らしい作品が一堂に展示される機会です。乞うご期待！

- 第 10 回　京都　5 月 26 日（火）～31 日（日）　ギャラリーヒルゲート　075-231-3702　…　（終了）
- 第 11 回　東京　8 月 4 日（火）～20 日（木）　永井画廊　03-3547-9930　…　（夏季休業期間あり）
- 第 12 回　福岡　8 月 22 日（土）～9 月 6 日（日）　みぞえアートギャラリー　092-738-5655
- 第 13 回　埼玉　10 月 31 日（土）～11 月 14 日（土）　ギャラリー彩光舎　048-822-9952

＊Report＊布良崎神社の奉納画・寺崎武男作品

布良崎神社には、天富命が布良に上陸したシーンを描いた**寺崎武男**の奉納画（210×125cm）があり、鳥居型に額装されています。青木繁の3年後輩にあたる寺崎は、イタリア留学を経て日本の西洋画を牽引した画家で、関東大震災後に館山へ移住しました。精力的に房総開拓神話を描き、安房高校などで美術教育にも携わっています。6月9日、修復技術の専門家・尾形純氏を招き、奉納画の傷み具合を調査していただきました。

＊寺崎武男作品の調査報告＊
＝株式会社ディヴォート修復室長・尾形純氏＝

フレスコ画風に描かれたテンペラ画は、 明治期に欧州で身につけた技術で描かれた貴重な作品であり、地元の神話を描いた貴重な作品です。鳥居型に額装されたテンペラ画は、経年による汚れ、塵埃などが画面に付着し、また作品の支持体、麻布の歪みもみられます。支持体の麻布は和紙で裏打ちされ、障子のような構造物に張り込まれており、裏打や和紙が剥がれています。さらに絵具層（描画層）は剥落やスレなどもみられます。

いくつかの症状がある作品ですが、適切な修復処置によって改善し保存することができると考えられます。近現代の修復ではオリジナルを守りながら、最小限の処置に止めることが最良と言われています。必要以上の補彩や加筆を避け、壊れた支持体の修正と補強に主眼を置き、画面の汚れを洗浄し、剥がれそうな箇所を接着して適切な平面性を戻し、最小限の補彩にとどめることで、十分作品の芸術性を取り戻すことができると判断しています。

布良崎神社には「敬神」と彫られた立派な扁額もあり、「御額師舛川」と記され、「茂卿謹書」と彫られています。「茂卿」とは誰なのか分かりませんが、江戸期の儒学者・**荻生徂徠**も「茂卿」の字名を使用しており、今後の調査が期待されます。

青木繁の3年先輩にあたる**倉田白羊**もまた、大正期に館山に在住し、富崎尋常小学校をはじめ児童自由画教育に携わっています。妻・英子の兄は明治期に渡米したアワビ移民の小谷源之助・仲次郎であり、親戚には白羊が描いた襖絵も残されています。

◇ 韮崎大村美術館企画展のお知らせ ◇
「寺崎武男展～郷愁のイタリア～」

2015 年6月28日（日）～9月6日（日）

NPO法人青木繁「海の幸」会の大村智理事長は、寺崎作品のコレクターとしても知られています。修復を終えた所蔵作品の企画展が開催されます。

山梨県韮崎市神山町鍋山 1830-1 TEL0551-23-7775